

(2) 施策の方針

第5章 安全で快適な生活が送れるまち

分野(3) 総合交通

施策の方針① 道路・交通体系の検討

<目標とすべきまちの姿>

地域の実情を考慮した都市計画道路の見直しが行われました。

自動車利用を抑制する等の交通需要マネジメント施策が進み、交通環境の改善が進んでいます。

地域住民、関係機関と協働し、歩行者を優先した交通体系が構築されたことで、快適で安全な市民生活が確保されています。

1 事業評価結果一覧表

まちづくり景観部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
まち-05	交通環境整備事業	2,683	18,583	2.1	b	A
まち-06	交通体系整備事業	14,971	32,386	2.3	b	A

2 平成26年度末の目標

まちづくり景観部

- ・パークアンドライド及び鎌倉フリー環境手形の周知に努め、交通関係事業者と調整しながら、利用数の増加を目指す。
- ・鎌倉地域の交通渋滞の解消に向け、鎌倉市交通計画検討委員会及び同委員会専門部会を開催し、「鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめ」を行う。
- ・平成26年5月に公共交通への転換を促すための新規循環バスの社会実験を実施する。
- ・自動車交通の抑制策(ロードプライシング)の検討については、法的な課題や課金方法等を検討する特別委員会を設置するため、鎌倉市交通計画検討委員会条例の一部を改正する。

3 平成26年度の取組の評価

まちづくり景観部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

・パークアンドライドの利用促進に向け、寺社及び店舗から引き続き、協賛の協力を得た。
・H26年度パークアンドライド等の利用数が、H25年度より増加した。
・鎌倉地域の交通渋滞の解消に向け、「鎌倉市交通計画検討委員会」を3回、同委員会専門部会を6回開催し、自動車交通の抑制策(ロードプライシング)において、課金の対象や用途について一定の方向性を確認した。あわせて、「鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめ」を行った。また、法的な課題や課金方法等を検討する特別委員会を設置するため、鎌倉市交通計画検討委員会条例の一部を改正するとともに特別委員会の準備会を開催し、委員構成やスケジュール等について議論した。
・平成26年5月に公共交通への転換を促すための新規循環バスの社会実験を実施した。

4 今後の方向性

まちづくり景観部

- ・パークアンドライドの実施箇所が国道134号沿線のみとなっていることから、今後は、他のルートからの鎌倉地域への各流入口での実施の可能性について検討する。
 - ・公共交通と徒歩による観光を促し、自動車から公共交通への転換を図るため、鎌倉フリー環境手形の路線延伸や電子化を検討する。
 - ・鎌倉地域の交通渋滞の解消に向け、自動車交通の抑制策等の検討を継続して行っていく。
 - ・施策の一つである(仮称)鎌倉ロードプライシングについては、鎌倉市交通計画検討委員会等で更なる検討を行い、実現の方向性を整理する。
- ※都市マスタープランの見直し終了後、交通マスタープランの改訂を平成28年度から取り組む必要がある。(平成28年度～29年度)

5 平成27年度末の目標

まちづくり景観部

- ・パークアンドライド及び鎌倉フリー環境手形の周知に努め、交通関係事業者と調整しながら、利用数の増加を目指す。
- ・鎌倉市交通計画検討委員会を開催し、鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた検討を引き続き進める。
- ・特別委員会を設立し、(仮称)鎌倉ロードプライシングについて議論を進める。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・重点事業である交通体系整備事業で、鎌倉地域休日交通渋滞対策を検討した。
- ・パークアンドライド・鎌倉フリー環境手形拡大について、事業者との調整を実施した。
- ・自動車交通の抑制策(ロードプライシング)について、課金の対象や用途について一定の方向性を検討、新規循環バスの社会実験など、挑戦的な検討をしていることは評価できる。

2 課題・提言

- ・自動車交通の抑制策(ロードプライシング)の実施に向けては、現実的な法制度や課金の技術的方法、事業費の確保、実施主体等の課題にむけて時間がかかると思われる。
- ・新規循環バスの社会実験では本格運行に向けて、路線バス再編や踏切道改良、交通誘導員の複数配置等が課題である。